

# 第75回 都草 歴史探訪会 東部「大火後の川東に祈りの街を巡る」

日時 平成29年5月23日(火)13:00～ 晴れ  
集合場所 妙傳寺境内  
参加費 800円  
参加人数 62名(非会員9名・スタッフ8名含む)  
コース 妙傳寺→大恩寺→大蓮寺→専称寺→  
寂光寺→信行寺→大光寺→頂妙寺→  
超勝寺→壇王法林寺

31度越えの、真夏日のような暑い一日となりました。ちょっとマイナーな場所で、皆様が来てくださるか心配していたのですが、予想をはるかに超える60人以上の方々のご参加下さいました。

江戸時代、宝永5年(1708)に起きた大火により、御所をはじめ、たくさんの寺院や町屋が被災しました。御所の再建に伴い公家町を拡張することになり、丸太町通以北、烏丸通以東の町屋は立ち退きさせられました。代替地として与えられたのがこの川東と呼ばれる地域でした。御所の東側の寺町通りの寺院もこの地に移転しました。

川東地区の通りには移転前の通りの名前にちなみ、新〇〇通りという名前が付けられました。今から309年前のことです。

東大路二条の角にある「妙傳寺」からスタートしました。「関西身延」と言われる日蓮宗の本山寺院で、日蓮上人の「御真骨」を奉安しています。前は良く通るのですが、本堂に上がらせていただくのは初めてで、立派な本堂に驚きました。

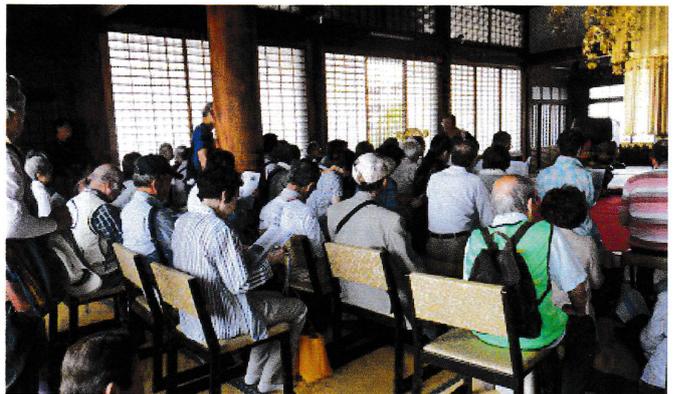
お寺の方の丁寧な説明を頂きました。年末恒例の顔見世の「まねき」が客殿で書かれることは、あまり知られていなかったようです。歌舞伎役者の片岡家の菩提寺で、「丸に二引」の紋の片岡碑があります。その関係でこのお寺が使われたそうです。勘亭流と言う独特の書体で、大入りを願って隙間なく板一杯に描きます。その時つやを出すため墨に混ぜるのは、伏見の清酒ということです。



出発前に日陰に集まった参加者



川東の説明は福井会員



妙傳寺本堂内にて



案内していただいた塔頭通妙寺の谷口住職



日蓮宗の木鉦



寺名のまねき 上の屋根は「入」の字

このあたりには、鋳葺(しころぶき)と呼ばれる屋根の建物が多く見られます。鋳とは兜の下の部分のことで、その姿に似ているので、そう呼ばれています。以前は市内の中心部にも見られたのですが、天明の大火で焼失してしまい、天明の大火の影響をあまり受けなかったこの地域には残っています。

**大蓮寺**は戦前まで若宮五条にあったのですが、戦時中の五条通りの拡幅の時に、ここに移転したものです。こんな所にも戦争の余波があるのですね。蓮がきれいなお寺です、まだ咲いていなくて残念でした。この薬師如来は、明治の神仏分離の時、八坂神社から遷されたものだそうです。

また寺のお札を配りながら走る「走り坊さん」が皆に親しまれていた話はとても面白かったです。今のお坊さんたちにも聞かせたいですね。

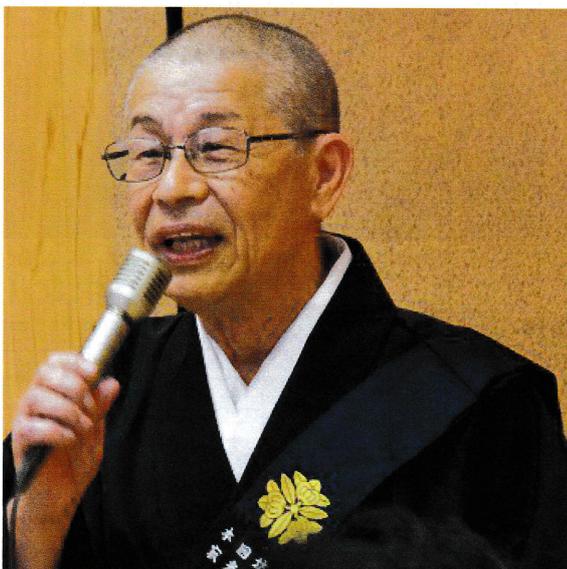


大蓮寺横の駐車場で  
大谷副部長より解説

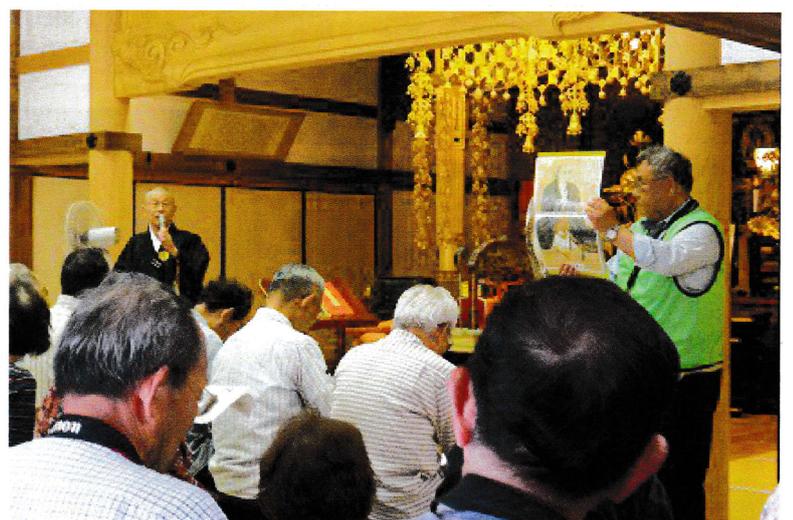
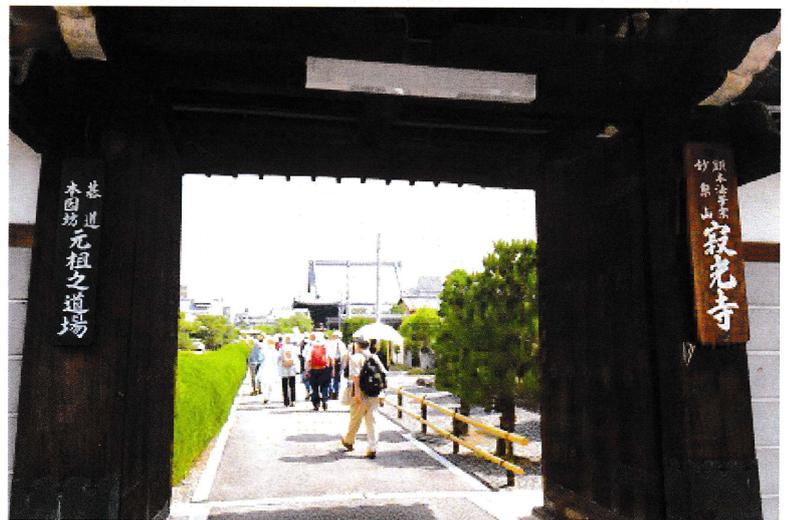


走り坊さん

**寂光寺**は日蓮宗の寺院で、囲碁のお寺として有名です。二代目の住職が「算砂上人」で、本因坊の元祖です。信長、秀吉、家康が師事して碁を学んだといわれるすごい方だったようです。算砂上人ご愛用の碁盤と碁石を見せていただきました。



寂光寺第33世大川定信住職



寂光寺本堂にて 大川住職より解説

上人のお墓にも参らせてもらいました。(お参りするだけで半目上達するそうです。)

本因坊算砂(日海上人)のお墓



平成24年、本因坊誕生400年を記念して、第67期本因坊決定戦七番勝負の第一局が行われた対局の間も見せていただきました。囲碁好きにはたまらないお寺でした。



本因坊対局の間にて



劫について解説する武富部長



歴代本因坊の名前の解説

**信行寺**は、残念ながら非公開でしたが、2年ほど前の若冲忌の時に出かけられた方も多かったようです。

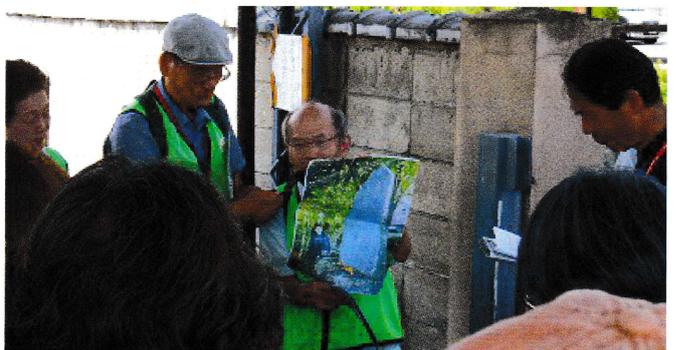
本堂外陣の格天井の「花卉(かき)図」の写真を見せての説明がありました。もう一度、自然の光の中でゆっくり見せていただきたいものです。



信行寺の解説は廣瀬副部長

**大光寺**の奥八兵衛のお墓の話を知りました。知恩院の山門内にある奥氏先徳碑に、天皇の火葬制度を改革させた忠誠心をたたえる文言が刻まれているとの事でした。

一市井人が天皇の葬儀の方法を変更させ、その功績が石に刻まれるという異例の事跡が、歴史の隙間に埋もれ、最近までその所在が分からなくなっていたそうです。



山本会員より奥八兵衛の解説

頂妙寺も日蓮宗の本山で大きい寺域を持っています。なかなか中まで入ることがなかったのですが、今回は本堂まで入れていただき、お話をお聞きました。

またレプリカでしたが、俵屋宗達の「牛図」がありました。墨一色で描かれているのですが、「たらしこみ技法」により、筋肉の様子が感じられるすばらしいものでした。



頂妙寺にて

頂妙寺の前の東西の通りを「仁王門通り」というのは、このお寺の仁王門からつけられたそうです。「仁王門」と言っても仁王尊ではなく、多聞天と持国天の二天が祀られており、どちらも快慶の作と伝えられています。



頂妙寺仁王門にて 丹羽会員より解説

超勝寺は都草の熊谷副理事長の菩提寺ということで、特別に拝観させていただきました。

超勝寺には、初代と二代目の井上八千代のお墓や、勤王芸者と呼ばれる中西君尾のお墓があります。

君尾が節をつけたという「トンヤレ節」のテープが流され盛り上がりました。皆さんご存知のようで、口ずさんでおられました。



超勝寺境内にて 武富部長より解説

最後は檀王法林寺でした。時間がオーバーし、長い説明は省かれました。

檀王法林寺の開山、袋中上人は主夜神尊(しゅやじんのみこと)のお告げを受けました。その後、明に渡ろうとして果たせず、琉球に3年間逗留しました。その間、主夜神尊への信仰を持ち続け、帰国後、檀王法林寺にお祈りしました。

主夜が守夜に繋がることから、夜を守る神として信仰され、そのお使いが黒猫なのも面白いですね。招福の黒猫の招き猫もここが発祥のようです。

境内に「南无阿弥陀仏」の石柱がありました。「無」も「无」も当初は普通に使われていました。「无」の字は教行信証や名号の掛け軸にも見られましたが、江戸時代以降の石柱に刻まれるのは非常に珍しい例だそうです。



檀王法林寺にて 田村会員より解説



南无阿弥陀仏の石柱